

nharada@tmu.ac.jp, chieko.tkym@gmail.com, bono@nii.ac.jp

1. はじめに

自然言語の条件文は、特定の関連を持つ二つの命題によって表現されるが、意味論・統語論の双方の面で研究の対象として取り上げられてきている。本研究では、日本手話の条件文の統語的側面について、現在国立情報学研究所で開発中の「日本手話話し言葉コーパス」(<http://research.nii.ac.jp/jsl-corpus/research/index.html>)を用いて調査を実施した。その結果、日本手話の条件節の指標となる主要な非手指表現はうなずきであるということ、また、うなずきを用いた条件文(以下うなずき型)以外に、ロールシフト (role shift/referential shift¹; 以下 RS と省略) を用いる表現 (以下 RS 型) も多出することが明らかになった。

2. 手話言語の条件文

一般に条件文は「if ... then／もし ... ならば、...だ」というように、形式の異なる二つの文が連続して出てくるという形式で表される。² 本研究では、前半部分の条件を表す部分(日本語では「もし... ならば」に相当)を「条件節」と呼ぶ。手話言語の条件文の類型的研究では、文の左端(left periphery)に条件節が表出され、「上がった眉(raised eyebrows)」および「頭の傾き(head tilt)」という非手指表現(non-manual markers; 以下 NMM と省略)を伴うことが観察されている(Dachkovsky 2004: イスラエル手話)、Pfau 2008: アメリカ手話とオランダ手話(Sign Language of the Netherlands/Nederlandse Gebarentaal; NGT))。³

- (1) アメリカ手話(American Sign Language; ASL)⁴・オランダ手話(Sign Language of the Netherlands⁵; NGT))

The conditional clause is accompanied by *raised eyebrows* and a backward *head tilt* (Pfau 2008)

- (2) イスラエル手話(Israeli Sign Language ; ISL) (Dachkovsky 2004)

- a. ... *raised brows* in ISL seem to signal consequence, and squint marks the information as shared with interlocutor.
- b. My study shows Israeli Sign Language is capable of making this distinction by means particular to sign language only: factuais are systematically associated with *raised brows*, and counterfactuals with raised brows together with squint.

*本研究は日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)(課題番号 16K02632 研究代表者 原田なをみ)および日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究(A)(課題番号 26704005 研究代表者 坊農真弓)の助成を受けている。また、国立情報学研究所・坊農研究室の手話プロジェクトミーティングにおいて、参加者より有益なコメントを得た。手話話し言葉コーパスのデータに関して、牧野遼作氏の協力を得た。全ての文責は第一著者にある。

¹ 役割/指示対象明示標識(岡・赤堀 2011:97)。発話者が文中の述語の主語の視点を取る、あるいは複文構造で主節の主語が埋め込み文の主語の視点を取る。

² 本稿では、主に条件文の形式に着目する。音声言語の条件文の意味論および語用論的研究に関しては、赤塚・坪本(1998)、有田(2006)などを参照のこと。

³ 以下(1)(2)における、斜体による強調は第一筆者によるものである。

⁴ ASL の条件文に関して、詳細は Baker & Padden 1978; Liddell 1980, 1986 を参照のこと。

⁵ NGT は Nederlandse Gebarentaal の略である。

(3) NGT (Pfau 2008)

- _____ cond _____ aff⁶
a. SUPPOSE RAIN, PARTY CANCEL 'If it rains, the party will (indeed) be cancelled.'
_____ aff _____ cond
b. * PARTY CANCEL, SUPPOSE RAIN 'The party will be cancelled if it rains.'

日本手話の研究では、条件節の NMM としては、既存の手話言語の研究で言及されている**眉の位置**と同等のものが見られるという観察(岡・赤堀 2011)と、眉の位置よりもむしろ**頭の位置**により条件節が示される(市田 2005)という二つの観察がある。⁷ 市田(2005)による日本手話の条件文の観察をまとめると、次のようになる。

- (4) a. 条件節文の前件では、「節末までに特定の一に頭を移動し、節末の手指単語と頭の一を一定時間保持」という NMM が見られる。
b. 頭の位置が「上」の場合、「～であれば当然」というニュアンスがある。
c. 頭の位置が「前」の場合、従属節を「自分の側にあるもの」・「後」の場合は「自分の外側にあるもの」として受け取るイメージがある。

(市田 2005:99)

一方、岡・赤堀(2011:77)では、日本手話に条件節について、次のように述べている。

- (5) 眉上げで始まり、かつ主節に入る前に間(固定)が入ってそれが解除されて、主節につながる

(4) と (5) を合わせて考えると、日本手話の条件文は「眉上げ」「頭の動き(上／前／後)」によって表される、ということになる。眉上げの有無は、市田(2005)では明記されていないし、三方向ある頭の動きも、(音声・ジェスチャーのモダリティに関わらず)既存の条件文の研究における観察とどのように結びつくのかは明らかでない。

3. 調査

日本手話の条件文の実現形を調査するため、本研究は、現在国立情報学研究所で開発中の「日本手話話し言葉コーパス」(<http://research.nii.ac.jp/jsl-corpus/research/index.html>)のデータを用いた。このコーパスは、日本手話データを都道府県毎に語彙および対話の両面から収録する目的で構築されている。コーパスのデータは、**動画とその注釈**(注釈ソフト ELAN によってつけられた(日本語の)「グロス(逐語訳)・構造訳(直訳)・翻訳」という三層構成)から成り立っている。本研究では日本手話の条件文の統語的実現を調査するため、現時点で収録および注釈づけが終了している3県のうち、注釈者に確認が取りやすい状況にあった長崎県の対話データを参照した。対話データは平均3.75分で、30代から70代の男女の話者からなる8組の日本手話話者が、「カレーの作り方」というテーマで日本手話を用いて対話を行ったものである。⁸

上述のコーパスの対話データの中から、条件文を抽出した結果を量的にまとめたものが表1である。

⁶ Cond は conditionals (条件節) の略で条件節の NMM ((1) を参照のこと) である。Aff は手指表現と共起する接辞的な (affixal) NMM であるが、詳細は Pfau 2008 には記載されていない。

⁷ 市田(2005: fn7) では、Dachkovsky 2004 に言及し、「眉上げ(と反事実条件文の時は)目細め」だけで条件文が表現されるイスラエル手話と異なり、日本手話では眉上げのみで条件文が表現されることはないとしている。

⁸ 収録に参加した日本手話話者の言語環境については、最終節を参照のこと。

表 1^{9, 10}

	NS_1&2	NS_3&4	NS_5&6	NS_7&8	NS_9&10	NS_11&12	NS_13&14	NS_15&16
性別・年代	女	女	男	男	男	女	男	男
	70 代	30・50 代	70 代	50・30 代	60・70 代	40 代	70 代	(40 代)
うなずき型	2 (100%)	13 (76.5%)	1	2 (100%)	5 (71.4%)	2	1	2
RS 型	0	4	3 (75%)	0	2	4 (66.7%)	2 (66.7%)	7 (77.8%)
条件文 合計表出数	2	17	4	2	7	6	3	9

8 組のうち、うなずき（およびそれに付随する NMM）を用いた条件文が、条件文の総数の過半数を占めた組は 4 組であり、残りの 4 組は ロールシフト（役割（または指示）対象明示標識；話者が文の主語の視点を取って手話を表出する形式）を用いて条件節を表出する条件文が過半数を占めていた。全体では、50 文中 22 文と、半数近い条件文が RS 型の条件節を有していた。質的な面では、うなずき型は、述語（(6) 囲み部）¹¹で「頭を上げ、やや後ろに傾けてから前向きに下げる」という形式のうなずきが見られた。¹²

(6) お湯/cl:沸かす/終/油/わかる/cl:茹で・・・/pt1/あぶ・・・（油）/肉/cl:炒める/さらに/cl:茹でる/cl:刻む/から/
入れる

‘お湯を沸かすでしょ、そしたら油・・・ほら油で炒めるよりも茹でてから刻んで鍋に入れる’[うなずき型]

他のうなずき型の条件文の例を以下に挙げる。

(7) /pt2/肉/cl:除ける/rep/他/cl:入れる/何/pt2¹³ ‘肉が嫌いなら代わりに何を入れるの?’[うなずき型]

(8) 長い/いえいえ(口型:ダメ)/長い/いえいえ(口型:ダメ)/泊/1/構わない/言われた ...

‘長くはダメ、一晩ぐらいなら大丈夫って言われた...’

[うなずき型]

(9) pt(水と具が入った鍋)/黄色/cl:かき混ぜて/溶かし/OK/cl:鍋に入れる

‘鍋にカレー粉を(水で)溶いて溶けたら鍋にそれを入れる’

[うなずき型]

(10) NMM 相手に反応して/p/OK ‘ああ、なら OK’

[うなずき型]

動画データを詳細に観察すると、上述の頭の動きに伴い眉も上がることが判明した。そのため、頭の動きが小さい場合でも、眉の動きによって条件節ということが識別できる。次の例は、頭の動きはそれほど大きく

⁹ 条件文の二つのタイプのうち、多い方の実現形の割合を表示している。

¹⁰ “NS”は Nagasaki（長崎）の略号である。

¹¹ 以下囲みでうなずきを表す。

¹² 以下、本稿で用いられている逐語訳の表記は以下の通りである。

cl: classifier pt:指差し（その後の数字は人称を表す） fal: フィラー LH: 左手 RH: 右手
un: unknown（何を指すのか不明な形式）

¹³ くり返された‘除ける’という手話のうち、2 回目でうなずきが見られた。

なかったが、「終」の手形の箇所では眉上げが顕著であり、(あまり大きくはない) 頭の動きと共に条件節の目印となっている。

- (11) 茶色/cl:一面~~終~~肉/入れる/ ‘茶色くなったら肉を入れる’ [うなずき型]

一方 RS 型では、(12) の波下線部に見られるように、特定の述語で話者が視点を切り替える、ということにより条件節が統語的に示された。この際、うなずきの類いは見られなかった。¹⁴

- (12) (口型:こんにやく)/cl:ちぎる(rep)/cl:まな板の上で包丁で切る/わかる/同じ
‘ちぎってるから、包丁できれいに切ったらバレちゃうもんね’ [RS 型]

- (13) 手作り/食べる/fal/喜ぶ/cl:人型美味しい(rep)/言われる
‘手作りしたものを食べると喜ぶ、「美味しい」って言われる’ [RS 型]

- (14) un/pt2/どっち/どう/pt1/un/試す/cl:配る/cl:みんな/食べる/美味しい/NMM (疑問) /どっち/わからない
‘君のとどっちがどうだろう、試しにみんなに食べてもらったら美味しいのはどっちだろうね’ [RS 型]

- (15) pt(ホラ)/掲示/pt1/たまたま/cl:人型ポスターを見たら/珍しい
‘ホラ、ポスター、私たまたま貼ってあるのが見えた、珍しい’ [RS 型]

- (16) pt(これ)/cl:よそう/美味しい(撫でる)/意見/尋ねる/子供たち/cl:子供がよそわれたものを受け取る/美味しい(撫でる)/
美味しい(叩く)(rep)/言われた/fal/美味しい(撫でる)・・・/美味しい(叩く)/美味しい(撫でる)/美味しい(撫でる)
‘これをよそって美味しいか意見を聞こうと子供たちに渡したら、美味しい美味しいって言ってくれた’
[RS 型]

- (17) pt1/cl:スプーンでひと口食べる/cl:汗が出る/pt1 ‘一口食べたら頭から汗が吹き出る’ [RS 型]

うなずき型と RS 型の選択は、今回見たデータの範囲では、述語の種類にも因らず、どちらの型も、どのアスペクトタイプの述語においても観察された。¹⁵ また、上述 (12) と下記 (18) のように、同じ「切る」という述語がうなずき型・RS 型両方の条件節に見られるという例もあった。

- (18) 3(LH)-まとめる(RH)/3(LH)-pt(左手の人差し指)/野菜/4(LH)-pt(左手の人差し指)(RH)/野菜/全部/
cl:包丁で切る/終/cl:器/ラップ/cl:器/cl:器(LH)-cl:ボタンを押す(RH)/cl:器をレンジに入れる
‘食材 3 つの野菜の食材の野菜を全部カットしたらお皿に入れてラップをしてレンジに入れる’
[うなずき型]

(19) のように混在型も一例のみではあるが、観察された。

¹⁴ 以下、波下線で条件文と解釈される RS に印をつける。

¹⁵ うなずき型が状態述語を含む文も今回の調査対象のデータの中に存在した。

(i) fal/材料/ある(rep)/cl:入れる/無い終/ ‘あ〜材料があれば入れる、なければ終わり’ [うなずき型]

(19) fal/全部/食べる/OK/無料/良い ‘全部食べたら無料ならいいね’

[うなずき・RS 混合型]

4. 考察

上記の観察から、日本手話の条件節を明示する主要な NMM は「うなずき」であることが判明した。眉上げは、多くの条件文表現には顕著には見られないことから、頭のうなずきに付随する二次的身体標識と考えられる（ただし (11) のような、うなずきより眉上げの方が顕著な例も、数は非常に少ないが、存在する）。

一方、既存の手話言語の条件文に関する研究では見られなかった、RS を使用する条件文も多く存在することが判明した。うなずき型と RS 型の違いについて、述語の性質に違いが見られるかどうかに関しては、たとえばうなずき型には「沸かす」「溶かす」「終」「切る」といった、達成動詞が多いが、その一方で「pt」（前の文の内容を受ける指示語）や「泊/1」（「一晩置いておく」の意）といった、動詞以外の品詞や、状態述語のようなものにもうなずきの条件節マーカ―は見られた。RS 型も、「美味しい」「珍しい」「ポスターを見る」「みんなに配る」「子供」というように、品詞・アスペクト共に混在している。また、前項に挙げたように、(12) (18) のような、「切る」という述語が出てくる条件文で、両方の実現形の例が見られたり、(19) のように、1 つの述語に同時にうなずきと RS が見られる例もあった。うなずき型と RS 型という日本手話の条件文の二種類の実現形の選択については、今後の検討課題としたい。

5. おわりに

日本手話話し言葉コーパスの対話データより、条件文の実現形を調べた結果、以下のことが判明した。

(20) 日本手話の条件文

- a. 条件節の述部をうなずきか RS でマークする。
- b. 条件節の標識となる主要な NMM はうなずきである。
- c. 条件節の標識となる上後部から前下部へのうなずきに付随する二次的な NMM として、(他の手話言語にも見られる) 眉上げが見られる場合もある。

本研究は、日本手話における条件文においては、主体となるのはうなずきであり、眉上げは二次的な特徴であることから、うなずきと眉上げの関連を明らかにしたことに加え、RSが視点の変換だけでなく、条件節という法を表現するために使用されるという、従来着目されていなかった点を明らかにしたという点で、日本手話の文法の解明に貢献した。

Appendix: データ収録に参加したろう者の言語環境

国立情報学研究所の日本手話話し言葉コーパスプロジェクトでは、日本手話の話し言葉のデータを収録する際に、データ提供者にアンケートを実施している。その回答から明らかになった、本稿で使用した長崎県のろう者 16 名の言語環境について記しておく。

まず、「家族にろう者がいたかどうか」に対しては、子供時代に「いた」と回答したろう者は全体の 25% (4 名) であった。「家族が手話を使っていたかどうか」は、62.5%にあたる 10 人が「使用していた」と回答している。

次に、「手話を使い始めた年齢」に関しては、次のような回答結果が得られている。

表 2 長崎県の収録協力者のろう者が手話を使い始めた時期

年齢	5 歳	小学校 1 年	小学校 2 年	小学校 3 年	小学校 5 年
人数	3	9	1	1	2
人数	3	11			2

表 2 からわかるように、小学校就学前から手話を使用していたろう者が 3 名、小学校低学年までに手話を使用していたろう者は 11 名、ここまですべてをほぼ臨界期としても、全体の 87.5% がほぼ臨界期までに日本手話を使い始めている。思春期（12 歳）を基準点とすると、100% のろう者がそれより前の時点で日本手話を使い始めている。

ろう学校には、その回答から行っていた学年が不明な 1 名を除き、15 名中 11 名（約 73%）が小学校 1 年生から高校 3 年生までの 12 年間通っていたとの回答があった。また、その 11 名のうち半数近い 5 名が乳幼児の頃から（4 名は 3 年間、1 名は年長の 1 年間のみ）ろう学校に通っている。

参考文献：

- Baker, Charlotte & Carol Padden 1978. Focusing on the nonmanual component of ASL. In: Siple, P., ed., *Understanding language through sign language research*, 27-57. New York: Academic Press.
- Dachkovsky, Svetlana. 2004. Factual and counterfactual conditionals in Israeli Sign Language. Paper presented at TISLR 8. Universitat de Barcelona.
- Liddell, Scot K. 1980. *American Sign Language syntax*. The Hague: Mouton.
- Liddell, Scot K. 1986. Head thrust in ASL conditional marking. *Sign Language Studies* 52: 243-262.
- Pfau, Roland. 2008. Topics and conditionals in sign languages. Paper presented at DGfS 2008 – Workshop on Topicality. Bamberg.
- 赤塚紀子・坪本篤朗. 1998. モダリティと発話行為. 東京：研究社.
- 有田節子. 2006. 時制節性と日英語の条件文. 益岡隆志 編 「条件表現の対照」 127-150. 東京：くろしお出版.
- 市田泰弘. 2005. 手話の言語学第 9 回：頭の動き・位置と顔の表情 – 日本手話の文法（5）文タイプと従属節. 月刊言語 第 34 巻、94-101.
- 岡典栄・赤堀仁美. 2011. 文法が基礎からわかる日本手話のしくみ. 東京：大修館書店.